

VII. (財)日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団の事業活動 —明日のホスピス・緩和ケアのために—

長村 文夫

(日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団)

はじめに

(財)日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団は、2000年12月末に当時の厚生省(現:厚生労働省)に設立許可され、以来ほぼ3年の事業活動歴をもち、財団としては将来の可能性をもつ若さと未成熟さが併存していると考えている。財団の目指すところは、誰でも望めばいつでも適切なホスピス・緩和ケアを受けられるような医療・社会環境の構築という理想に向かっての歩みを支援することにある。道なお遠しだが、目標に向かってのこの3年間の歩みの概況を、本年度のおもな事業をご紹介しますながら、以下に報告する(なお、文中いづれも敬称略)。

① ホスピス・緩和ケアに関する調査研究事業

2～3年継続の調査研究が多く、ちなみに平成15年度事業としてお願いしている調査研究は表

1の通りである。()内の氏名は主任研究者と所属。

② ホスピス・緩和ケアフォーラム開催事業

ホスピス・緩和ケアについての正しい理解を、医療従事者とともに一般の方々にも深めていただくために、講演とパネルディスカッションを軸としたプログラムで、次の諸都市で開催してきた(表2)。

③ APHN(Asia Pacific Hospice Palliative Care Network) 支援事業

APHNは、アジア・太平洋地域のホスピス・緩和ケア活動を推進し、その質を向上させるためにシンガポールで設立された法人で、その活動を支援することを通して、地理的・文化的に緊密なこの地域のホスピス・緩和ケア活動の進展と相互交

■表1 平成15年度ホスピス・緩和ケアに関する調査研究事業

①	ホスピス・緩和ケアにおけるソーシャルワーカーの実態調査及びガイドラインの作成(正司明美/山口県立大学 第3年度)
②	遺族ケアのニーズと現状に関する基礎調査研究(高山圭子/淀川キリスト教病院 第3年度)
③	がん患者のリンパ浮腫に対する臨床的手技の確立と普及に関する研究(吉田扶美代/国立がんセンター東病院 第2年度)
④	大学医学部の緩和ケア教育カリキュラムと教科書の作成と提言(黒子幸一/関東自動車工業(株)横須賀健康管理センター 第2年度)
⑤	わが国における緩和ケアチームの実態調査(西田茂史/聖マリアンナ医科大学病院 新規)
⑥	緩和ケアチームで活動する看護師の役割開発(梅田恵/昭和大学病院 新規)
⑦	経皮的椎体形成術の安全性・有効性の評価と適応(上杉雅文/筑波メディカルセンター 新規)

■表2 ホスピス・緩和ケアフォーラム開催事業

平成13年度	札幌市, 大阪市, 山口市, 名古屋市, 神戸市, 福岡市, 東京都
平成14年度	奈良市, 高松市, 大分市, 青森市
平成15年度	鹿児島市(12月), 茅野市(12月), 高知市(平成16年2月)

流に寄与することを図る。

④ 緩和ケア病棟専従医養成プログラム開発に関する研究助成

緩和ケア病棟専従医の養成プログラムは、ホスピス・緩和ケア医療の水準の維持向上のために不可欠であり、かつその早急な開発・確立が求められている。財団としては、複数年をかけてかかる養成プログラムの開発を目指すこととし、本年度はその初年度として、準備的研究を研究チーム(代表：木澤義之/筑波メディカルセンター病院)に委嘱している。

⑤ 『ホスピス・緩和ケア白書』刊行配布事業

本年度からの新規事業だが、将来的には毎年または隔年の事業としたいと考えている。

⑥ ホスピス・緩和ケア教育セミナー開催事業

ホスピス・緩和ケア従事者の再教育と専門性の確立を目指して、25～30名程度の参加者を対象に講義と小グループによるロールプレイなどを行う。平成14年度に第1回実施、本年度は11月に昭和大学横浜市北部病院で実施した。

⑦ ホスピス・緩和ケア実践セミナー開催事業

平成13年度財団事業として刊行配布した『がん緩和ケアマニュアル』を教材にして、地域の病院、クリニックなどホスピス・緩和ケア従事者以外の一般の医療従事者、訪問看護師などに緩和ケアを学ぶ機会を提供することを目指し、平成14年度に東京で第1回を実施したが、非常に好評で、継続の要望をいただいた。本年度は12月に広島市で開催した。

⑧ 海外(オーストラリア)短期研修留学補助事業

オーストラリアのMonash University, Vic.で開設されている「日本人ナースのための緩和ケア教育プログラム」に参加希望の看護師から選抜、費用の一部を補助した。平成14年度からの継続事業である。

⑨ ホスピス・ボランティア研修支援事業

平成14年度はホスピス・ボランティアを対象とするプログラムの初年度だったので、「ホスピス・ボランティア全国大会」という形式をとって大阪で開催したが、平成15年度はより実質的なプログラムをくむことを目指し、全国3都市(4月/福岡、7月/静岡、9月/京都)で講演・研修会を開催した。

⑩ 機能評価シンポジウム開催助成事業

全国ホスピス・緩和ケア病棟連絡協議会で、ホスピス・緩和ケア病棟の機能評価システムについての研究シンポジウムを7月に開催し、財団は財政的に支援した。

⑪ ホスピス・緩和ケア看護師教育カリキュラム普及に関する事業

全国ホスピス・緩和ケア病棟連絡協議会が、ホスピス・緩和ケア看護師の教育カリキュラムをそのホームページに掲載するにあたり、その掲載に要する費用を援助する。

⑫ 財団設立3周年記念大会「ホスピスが目指すもの」

ホスピス・緩和ケアの意義を広く一般市民、メディア、行政にアピールすることを通して財団およびホスピス・緩和ケアへの社会的支援基盤を築くために、実質的に設立3年目となる平成15年度に規模の大きいイベント事業を開催した。

平成16年2月14日(土)メルパルク・ホール(大阪)

〔講演〕柳田邦男

〔音楽〕独唱：森 祐理

〔鼎談〕大熊由紀子(大阪大学教授)

柏木哲夫(淀川キリスト教病院名誉ホスピス長)

柳田邦男(ノンフィクション作家)

(五十音順)

⑬『日本死の臨床研究会教育セミナー集』出版
助成事業

⑭国際セミナー「緩和ケアチーム——その役割・運営・評価をめぐって」

緩和ケア診療加算の法制度の設定を機に、緩和ケアチームの重要性が改めてクローズアップされてきている。緩和ケア従事者に、そもそも緩和ケアチームに何が求められているかから始まって、そのあり方などを国際的な視野の中で学ぶ機会を提供するため、海外の緩和ケア従事者を招き講演・パネルディスカッションを含むセミナーを開

催した。

平成16年1月11日(日) 昭和大学 上条講堂

おわりに

私どもの財団の事業活動は、発足以来、多くの方々のご指導・ご協力に支えられてここまで歩んできてことができました。社会環境の激変、ひいては医療を取り巻く環境の変化の中でのホスピス・緩和ケアの将来という視野も踏まえ、ホスピス・緩和ケアの進展と向上に役立つ事業活動を進めていきたいと考えておりますので、なお一層ご指導・ご鞭撻くださるようお願いいたします。